

藤岡市



議会だより

発行日 平成 18 年 5 月 15 日 発行 藤岡市議会 編集 藤岡市議会だより編集委員会 印刷 株式会社エスエイ印刷
藤岡市ホームページ <http://www.city.fujioka.gunma.jp/>

第34号



平成18年3月3日議場にて

3月定例会の あらまし

定例会は、3月3日から3月17日まで15日間の会期で開催されました。

平成18年度藤岡市一般会計予算についてなど59議案、議員提出議案1件が提出されました。

3日〓 本会議 会期の決定、議案59件を上程、うち46議案を即決。

6日〓 総務常任委員会、

経済建設常任委員会、

7日〓 教務厚生常任委員会、

9日〓 予算特別委員会、

10日〓 予算特別委員会、

14日〓 本会議 一般質問、

17日〓 本会議 委員会付託議案13件を可決。

議員提出追加議案1件を即決。

一般質問

青柳 正 敏

藤岡高等学校跡地取得 について

問 群馬県教育委員会は「藤岡地区新高等学校整備について」という実質5項目について、藤岡市と協議が整わない場合は、新高等学校の設備場所は現有地とする旨の協議書を提示し、詳細については協定書を作成するとあるが協定書の開示をお願いします。

答 協定書という文書については取り交わしておりません。

問 協定書を取り交わしていないのは「協議が整わない場合」に該当し、未作成の中で建設に着手したことは、協議書に関係なく県が独自に藤岡地域における高校統合については新地で始めたとの判断をせざるを得ないが、市はどのように理解しているのか伺います。

答 群馬県教育委員会と協議を進めてきた事項です。

問 藤岡地域のために使われていた藤岡高等学校跡地をなせ9億7000万円を上限として買取りするのか、土地賃借の交渉はしたのか伺います。

答 群馬県教育委員会との協議の中で進めており、現在、土地の賃借については想定しておりません。

財政非常事態宣言 について

問 市長は財政非常事態宣言をし、年6億円の改革をしているが財政健全化にはほど遠い現状であり、財政の安定化策について何をどうするのか、また、平成18年度予算で15億円の財政調整基金が取り崩され平成19年度は同額予算が編成できないと思われるが、財源不足の金額をいか程に見ているのか、集中改革プランを早い時期に公表するという

が、せめて目標金額を明示できるのか伺います。

答 平成17年度末の財政調整基金残高は約25億円の見込みで、平成18年度予算案で示したとおり多額の財源不足が生じており、財源の確保が大変厳しい状況であります。行財政改革に取り組んできたにもかかわらず多額の財源不足が生じ、今後も徹底した歳出削減と財源の確保に努め、限られた財源の中で施策を選択し、重点化を図り、積極的に行財政改革を進め実施するため企画や総務の段階で検討に入っておりますが、数値は明示できる段階ではありません。

石井 竹 則

介護保険について

問 介護保険料改定による財政への影響と今後の見通しについて伺います。

答 介護保険料が上がることで滞納額が増えることも予想されますが、介護保険制度は自治体ごとに運営し

支えていく点を市民の皆様にご理解していただき、収納率を上げていくよう努力します。

問 本市は山間部が多く、地域に点在する郵便局での納付が考えられないか伺います。

答 郵便局での入金、その他収納率を上げる方法を検討していきたいと思えます。

問 低所得者層に対する配慮と対応について伺います。

答 保険料段階に新第2段階が設けられたことにより、新第2段階では負担が軽減され、社会福祉法人等の利用者負担軽減の拡充が図られます。市独自のサービス利用軽減助成は現段階では考えておりません。

問 サービスの適性化対策について伺います。

答 不適性なサービスは市が責任を持って確認し、自立に向けたサービスへとつなげます。

問 「名実とも新しくないと生徒が集まらない」ということで移転新設された藤岡中央高等学校は、昨年に続き、今年も定員割れになったが、この結果についての感想を伺います。

答 残念ながら定員に達していないが、市内からの進学希望者が少し増えているという状況です。中学校、教育委員会、高等学校と連絡を取り合い、藤岡中央高等学校の考えをしっかりと支え、立派な実績をつくり上げ、地域の身近な高校になるよう、これからも可能な支援をしたり、連携を図っていきたくと考えております。

問 新高校建設に伴う周辺の通学道路整備などの費用は、どこが負担するのか伺います。

答 高校生については通学路の指定はないが、市としては今後の通学の動向を見ながら生徒・地域住民の安全確保に努めていきたいと考えております。なお費用については、それぞれの管理者が負担するものと考えています。

橋本 新一

諸政策の現状と対応 について

岩崎和則

防災対策における情報収集 及び伝達について

問 防災行政無線を配備して

いない当市において災害、民家火災、犯罪等の発生時に市民、自主防災組織、防犯組織への連絡方法、情報収集、伝達及び平常時の防災防犯活動、安全確認に『携帯電話、パソコンのメール配信』を導入してはどうか。鬼石小学校では緊急連絡等ですでに導入しているが、市として今後の取り組み方を伺います。

答 現在、市としては携帯電話、パソコンのメール配信サービスは取り組んでおりません。電話会社により使用できるエリアに差が生じ、平等に配信するのが難しい状況かと思えます。

しかし、近年の情報化に伴うメール配信は手軽で普及率が高く維持費も安価であり、台風や地震等地域密着型の災害情報を災害ボランティアや自主防災組織等へ瞬時に伝達できるなどメリットが多いため、今後は

実施している市町村を参考にして検討していきたいと考えております。



清水保三

国民健康保険について

問 県下で被保険者資格証明書の発行率が高いのは太田市が5・6%、次に高いのが

藤岡市です。当市では被保険者資格証明書の発行が480世帯で3・9%、短期被保険証の発行が440世帯で3・9%となり県下で第2位となっております。非常に不名誉な実態です。法定減免は別として、申請減免制度の活用が遅れている、あるいは指導等が行なわれず、広報などを通じて広く市民に伝えるべきです。特に重大な問題としては、子供がいる世帯の被保険者資格証明書の発行の問題です。子供は病気になる件数も多く、また、福祉医療の対象からも

外されています。もしもの事故発生を防ぐためにも、減免制度の弾力的運用を図って行くべきと思いますが、どのように考えているのか伺います。

答 子供のいる世帯等の問題もございまして、納税について良く相談し、心の温かい指導ができるようにして行きたいと思っております。

茂木光雄

ららん藤岡について

問 管理運営の委託方法と

バスターミナル構想について伺います。

答 ららん藤岡の農産物直売所の運営については、

これまで藤岡市農業振興株式会社が運営してきたが、4月から指定管理者となる株式会社藤岡クロスパークがその業務を引き継ぐ予定であります。農産物直売所の事業は一つの事業部門として運営し、事業経理として区分、責任者として部長級の社員を配置する予定であります。市として株式会

社藤岡クロスパークに対し、より効率的な運営に努め、営業体制にも力を入れる努力を求めていると考えております。また、バスターミナル構想については、国土交通省関東運輸局群馬運輸支局が事務局となり平成17年度に国土交通省の公共交通活性化総合プログラム

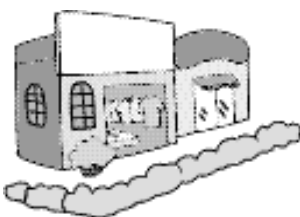
は、新規事業として空き店舗を利用したチャレンジショップ事業を計画しています。ハード面では都市計画道路緑町線の道路改良事業や小林立石線の市道111号線以北の用地買収を進めております。この3月に高山邸の基本計画が完成し、中心市街地に郷土の一時代を築いた藤岡市の瓦、そして鬼石地区の三波石をモチーフとした藤岡らしい空間を整備することにより、市民交流の新拠点を創出し、まちづくりの核としたいと考えております。今後、国のまちづくり交付金、県のまちづくり再生総合支援事業等の活用を十分に検討し、本市の歴史的遺産等を生かし、「緑と賑わいと安らぎを育むまちづくり」を図りたいと考えております。

まちづくりについて

問 市街地活性化支援事業

への取り組み状況について伺います。

答 ソフト面ではネオン灯設置事業補助、空き店舗活用補助事業及びイルミネーション点灯等の商店街活性化補助事業を実施してまいりました。平成18年度で



水源の確保と 水質の安全について

問 藤岡市にある17箇所の小水道の水質や水量、浄化設備に心配はないか伺います。

答 水質については月1回検査しており特に問題はないと思います。水量もデーターで見ると限り充分間にあつており、夏場における湧水のための水不足が生じたときは、給水車を派遣いたします。修繕の助成については、工事が20万円以上の場合には工事費の10分の4を助成しております。

問 小水道のある山間部は高齢化が進み、管理が大変な負担になっている。このような状況を市はどう考えているのか伺います。

答 地元組合だけの運営は困難に陥ることが懸念され、管理についての支援をしていくことも、将来的には必要になると考えております。

問 富岡市の鑓川用水でのカワヒバリガイ異常発生事件

で、吉井・甘楽両町は現在の水質検査では異常はないとしているが、群馬県は大量死による急激な水質悪化を引き起こすので早期の駆除を決定している。藤岡市においても水質検査だけでなく水源周辺の調査もしてもらえるのか伺います。

答 市としても、小水道施設の現地調査は必要と考えており、今後、上下水道部とも調整し、現地調査を行いたいと思います。

松本啓太郎

合併特例債について

問 合併特例債とはどのような特例債なのか、また、その対象事業について伺います。

答 合併市町村がまちづくり推進のため市町村建設計画に基づいて行う事業や基金の積立に要する経費について、合併年度及びこれに続く10力年度に限り、その財源として借り入れのできる地方債のことです。対象事業については、市町村の一体性の速やかな確立を

図るために行う公共施設の整備事業、例えば、道路・橋梁・住民が集う運動公園等や地域の均衡ある発展に資するために行う公共施設の整備、例えば介護福祉施設が整備されていない地域への整備、学校の大規模改修等の整備など、バランスのとれた発展を図るための施設整備で、合併協議会で作成した新市建設計画に位置づけられている事業です。

郷土芸能について

問 市内の太々神楽・獅子舞等の団体数と、その現状について、また文化である郷土芸能を義務教育の中にとどのように取り入れているか伺います。

答 現在、市内には太々神楽が17団体、獅子舞については14団体が活動しております。内訳は、藤岡地区が太々神楽2、獅子舞1、神流地区が太々神楽2、小野地区が太々神楽2、獅子舞2、美土里地区が獅子舞2、美九里地区が太々神楽1、獅子舞3、平井地区が太々神楽3、獅子舞1、日

野地区が太々神楽3、獅子舞2、鬼石地区が太々神楽4、獅子舞3となっており、市としても、今日まで大事に継承されました太々神楽、獅子舞を後世に残すため、調査記録したものを藤岡市誌や鬼石町誌に掲載しており、また保護の一助として、研究会に対して補助金を交付しています。また、文化価値の高い郷土芸能は、非常に小学生等に対し多くの意味を持つと思います。地域に伝わるこれらの郷土芸能を練習したり運動会などで発表していただきます。このほか琴や三味線、大正琴など児童の興味や関心に応じて取り入れている学校もあります。

大戸敏子

自転車のリサイクル について

問 藤岡市の公有施設間の連絡用公用自転車について伺います。

答 平成13年度から庁舎裏にリサイクル自転車を10

台設置し、近距離の用務に職員が利用しています。二酸化炭素の削減を図り、環境保全に貢献する目的で、鍵は宿直室に置き、職員が自由に利用できるようにしております。清掃センターに持込まれた不用自転車は年1800台ほどで、その1割がリサイクルされ、その一部を利用しています。利用については、職員に周知を図っており、荷物の関係で利用し難い場合もありますが、引き続き自転車の利用を促進していきたいと考えております。

問 公民館等の公共施設にリサイクルの無料貸自転車置き、市民の交通の利便性、地球環境の保全、各施設の利用の増大、自転車盗難の防止等をはかる市民自転車の設置について伺います。

答 自転車の回収の件、故障、修理の件、人件費の件、鍵管理の件等問題があり、充分協議をして、今後の研究課題としたいと考えております。

少子高齢化対策について

問 少子化対策への取り組みと第3子以降の子育て支援について、また、高齢者は人生経験豊かな人材であるので、幅広く活躍できる社会の構築が必要と考えるが、市の考え方を伺います。

答 少子化対策については様々な支援を実施しております。特に子育てに関する緊急時の対応として、「子育て110番」を県下で初めて24時間対応できる体制を整備しております。また、女性が出産後も職場に復帰し易い制度の確立に向けて市内企業に働きかけてまいります。第3子以降の支援に関しては、第3子以降に限定せず医療の無料化や保育料の軽減を実施しておりますが、市町村では限られた財源を有効に活用するためには限界があり、国を挙げて真剣に考えるべきだと思います。また、高齢者の力が地域づくりに大きな役割を担い活躍していただける

ことは社会や地域にとっても重要なことと考えます。今後更に高齢者の生き甲斐と健康づくり事業の推進に努め、地域で活躍できる場所や機会を増やして生きていと考えております。

公立藤岡総合病院について

問 公立藤岡総合病院の運営状況と他の自治体病院の状況について伺います。

答 国では医療費の増大を抑えるため、診療報酬を引き下げを行ってまいりました。そのため全国にある約1000の自治体病院の70%近くが赤字であり、今回の改定で更に赤字病院が増えることが予想されます。病院長を中心に経営改善に取り組んでおりますが、今後も厳しい状況が見込まれます。しかし、公立藤岡総合病院は藤岡、多野地域の医療の根幹を成す中核病院であり、その役割は重要で、特に民間の医療機関では成り立たない不採算部門こそ公立病院で受け持つべきと考えております。地域

住民の健康と医療を確保し、守っていくためにできる限りの方策を講じてまいりま

行財政改革について

問 国は、新たに市で必要な財源は現在の経費を削減し自らの努力で生み出さない

と示している。当市はこれから藤岡高等学校跡地で約10億円、市職員の退職金で約60億円の財源が必要となる。今の既定経費を削減してこの財源が生み出せるのか、また、削減して生み出せる財源はどの位あるのか伺います。

答 行財政改革推進計画に基づき、平成16年度から平成18年度までの3年間で約6億7千万円の削減をしました。

問 当市は財政状況が厳しい、厳しいと言いながらも行財政運営は大きな変化が感じられないが、行財政改革の先頭に立つ市長なら自ら身を削り、職員や市民に模範を示すべきであると考えているが、市長

は市民のために何をしなければならぬか、また具体的にどのような行財政改革をするのか伺います。

答 税込の上がる施策を行い、新市の発展と市民サービスの向上に取り組みで行きたいと考えております。

高齢者・老人福祉対策について

問 高齢者は、階段の手すりや住宅内の少しの段差など、ささいなことでも生活がしにくくなります。そこで、高齢者が自宅を改造した場合、補助金を支出する考えはないか伺います。

答 検討課題の一つとさせていただきますと考えております。

問 高齢者の外出時の足の確保のために、市内循環バスの無料券を配布する考えはないか、また、交通機関の通わない地区に住む高齢者に無料の福祉バスを運行する考えはないか伺います。

答 平成18年度にバス路線ネットワーク基本調査を行い、その中で高齢者の無料化についても検討される

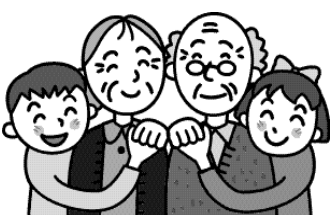
予定であります。福祉バスについては、今後充分な検討を重ねていきたいと考えております。

問 当市の認知症患者対策として、音楽療法やビタミンCの配布をする考えはないか伺います。

答 音楽療法については効果があるので今後検討したいと考えており、ビタミンCの配布については、イベント等を通じて徐々に進めていきたいと考えております。

問 年金未支給年齢の退職者年代の方々に再就職斡旋施策を早急に行う考えはないか伺います。

答 県の高齢者雇用支援と連携し、市内の公共施設でサービスを受けられるよう支援していきたいと考えております。



教務厚生常任委員会報告

所管調査

平成18年2月14日、本委員会は藤岡地区と鬼石地区の6主要施設を所管調査しました。

感じた。

- 1) 藤岡市国民健康保険鬼石病院は、現在、療養型保健福祉センター、老人保健施設とを持つ99床9診療科目の地域包括医療施設である。平成16年度の入院患者数は32,539人、外来患者数は44,132人である。

慢性病の投薬は何日分でも出せるようになり外来患者数が減少。公立藤岡総合病院は2・5次医療であり、当病院は1次医療であるので、慢性期の患者が月5人位公立藤岡総合病院より来院する。提携は一部であるため、今後両病院の連携を緊密にして地域の中核病院として機能していくべきと

感じた。
2) 藤岡市鬼石多目的ホールは、外観は総ガラス張りの建物で内部は杉材をふんだんに使い暖かい感じがする。斬新なデザインは建築業界の高い評価を受けている。経済産業省の事業補助を受け総事業費約8億円、体育館と171席の文化ホールを持ち、半地下形式で落着いている。

中心市街地活性化事業として機能する施設として期待され、住民の文化程度を高める効果がある。利用者は平成17年4月から12月までで570件、17,354人であるが見学者が24人以上ある。ただし、トイレが少なく、ホールの音響面や冷暖房等使い勝手は必ずしも良くないと思った。

(3) 藤岡市鬼石福祉作業所

「さくらの家」は、知的身体障害者の作業所として個別支援を行う。
定員10名で現在7名が通所している。作業内容が多岐で個性に合った仕事を楽しめる。建物が古く、内部だけでも改装できたらと感じる。生産物を市役所で販売できないか、利用者に約3千円から2万円の収入があり励みとなる、行政は障害者の就労に一層の支援が必要と思う。

4) 公立藤岡総合病院外来センターは、平成14年に約86億円で入院棟と分離して建設された。当病院はそれ迄6年間黒字経営であったが、現在は3年連続赤字で立直しに苦心している。高機能外来の特徴をアピールしていきたいが診療報酬の改定が痛い。

(5) 藤岡市福祉支援センター

「もくせい」は、心身障害者の作業所と15才以上の重度心身障害者のデイサービスセンターを併設。前者は29名が利用し五社から仕事を受け、約3千円から2万円の収入を得て職員と一体となり明るく働く。後者は8名が利用し他者とのふれあいが出来、家族の負担も軽減されている。

6) 障害児児童保育所「ふらっと」は、学校までバスで迎えにいき児童保育を午後3時から午後6時迄行い、家族の負担を軽減し親同士の交流をはかる。また、午前9時から午後2時まで、「つどいの広場」として未就園児の親子の交流、相談場所として利用されている。

障害者対策事業の充実を図ることは、全ての

人を受入れる術であることと感じた。

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 大戸 敏子 |
| 副委員長 | 串田 武 |
| 委員 | 石井 竹則 |
| " | 安田 肇 |
| " | 阿野 行男 |
| " | 湯井 廣志 |
| " | 斉藤千枝子 |
| " | 松本啓太郎 |
| " | 櫻井 定男 |
| " | 稲垣 秀一 |
| " | 片山 喜博 |
| " | 針谷 賢一 |



議案等審議結果(1月臨時会)

番 号	件 名	結 果
市長提出議案		
報告1号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市一般会計補正予算第4号)	承認(全員一致)
報告2号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市国民健康保険事業勘定特別会計補正予算第3号)	承認(全員一致)
報告3号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市老人保健特別会計補正予算第2号)	承認(全員一致)
報告4号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市介護保険事業勘定特別会計補正予算第3号)	承認(全員一致)
報告5号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市学校給食センター特別会計補正予算第2号)	承認(全員一致)
報告6号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市簡易水道事業等特別会計補正予算第1号)	承認(全員一致)
報告7号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市介護老人保健施設特別会計予算)	承認(全員一致)
報告8号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市三波川財産区特別会計予算)	承認(全員一致)
報告9号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市水道事業会計補正予算第2号)	承認(全員一致)
報告10号	専決処分の承認を求めることについて(平成17年度藤岡市国民健康保険鬼石病院事業会計予算)	承認(全員一致)
選挙・選任		
第1号	藤岡、吉井環境衛生事務組合議会議員の補欠選挙	当選
第2号	多野藤岡広域市町村圏振興整備組合議会議員の補欠選挙 常任委員会委員の選任 議会運営委員会委員の選任	当選 選任 選任

議案等審議結果(3月定例会)

番 号	件 名	結 果
市長提出議案		
第1号	三波川財産区管理委員会委員の選任について	同意(全員一致)
第2号	藤岡市職員の給与に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第3号	藤岡市職員の退職手当に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第4号	藤岡市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第5号	藤岡市福祉医療費支給に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第6号	藤岡市介護保険条例の一部改正について	可決(多数)
第7号	藤岡市高齢者自立センターの設置及び管理運営に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第8号	藤岡市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第9号	藤岡市小口資金融資促進条例の一部改正について	可決(全員一致)
第10号	藤岡都市計画事業北藤岡駅周辺土地区画整理事業施行規程の一部改正について	可決(多数)
第11号	藤岡市簡易水道事業等の設置等に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第12号	藤岡市下水道条例の一部改正について	可決(全員一致)
第13号	藤岡都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第14号	藤岡市水洗便所改造資金貸付条例の一部改正について	可決(全員一致)
第15号	藤岡市地区コミュニティセンター等の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第16号	藤岡市栗須の郷の設置及び管理運営に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第17号	藤岡市デイサービスセンター栗須の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第18号	藤岡市土と火の里公園設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決(全員一致)
第19号	藤岡市勤労者会館設置条例の一部改正について	可決(全員一致)
第20号	上町コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第21号	三杉町コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第22号	相生町コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第23号	本町コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第24号	諏訪コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第25号	根際コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第26号	三波川第2コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第27号	美原第3コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第28号	坂原コミュニティセンターの指定管理者の指定について	可決(全員一致)
第29号	藤岡市過疎地域自立促進計画の策定について	可決(全員一致)
第30号	藤岡市土地開発公社定款の変更について	可決(多数)

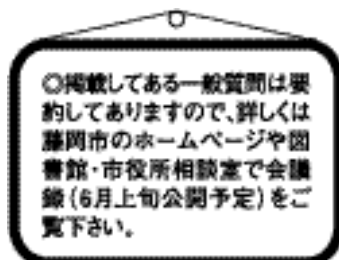
番 号	件 名	結 果
第 31 号	多野藤岡広域市町村圏振興整備組合交通災害共済事業の廃止に伴う財産処分に関する協議について	可 決(全員一致)
第 32 号	多野藤岡広域市町村圏振興整備組合交通災害共済事業の廃止に伴う事務承継に関する協議について	可 決(全員一致)
第 33 号	群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議について	可 決(全員一致)
第 34 号	市道路線の廃止について	可 決(全員一致)
第 35 号	市道路線の認定について	可 決(全員一致)
第 36 号	平成 17 年度藤岡市一般会計補正予算(第 5 号)	可 決(全員一致)
第 37 号	平成 17 年度藤岡市国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第 4 号)	可 決(全員一致)
第 38 号	平成 17 年度藤岡市老人保健事業特別会計補正予算(第 3 号)	可 決(全員一致)
第 39 号	平成 17 年度藤岡市介護保険事業勘定特別会計補正予算(第 4 号)	可 決(全員一致)
第 40 号	平成 17 年度藤岡市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算(第 1 号)	可 決(全員一致)
第 41 号	平成 17 年度藤岡市学校給食センター事業特別会計補正予算(第 3 号)	可 決(全員一致)
第 42 号	平成 17 年度藤岡市下水道事業特別会計補正予算(第 1 号)	可 決(全員一致)
第 43 号	平成 17 年度藤岡市特定地域生活排水処理事業特別会計補正予算(第 1 号)	可 決(全員一致)
第 44 号	平成 17 年度藤岡市簡易水道事業等特別会計補正予算(第 2 号)	可 決(全員一致)
第 45 号	平成 17 年度藤岡市水道事業会計補正予算(第 3 号)	可 決(全員一致)
第 46 号	平成 17 年度藤岡市国民健康保険鬼石病院事業会計補正予算(第 1 号)	可 決(全員一致)
第 47 号	平成 18 年度藤岡市一般会計予算	可 決(多 数)
第 48 号	平成 18 年度藤岡市国民健康保険事業勘定特別会計予算	可 決(多 数)
第 49 号	平成 18 年度藤岡市老人保健事業特別会計予算	可 決(多 数)
第 50 号	平成 18 年度藤岡市介護保険事業勘定特別会計予算	可 決(多 数)
第 51 号	平成 18 年度藤岡市介護老人保健施設特別会計予算	可 決(多 数)
第 52 号	平成 18 年度藤岡市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算	可 決(多 数)
第 53 号	平成 18 年度藤岡市学校給食センター事業特別会計予算	可 決(多 数)
第 54 号	平成 18 年度藤岡市下水道事業特別会計予算	可 決(多 数)
第 55 号	平成 18 年度藤岡市特定地域生活排水処理事業特別会計予算	可 決(多 数)
第 56 号	平成 18 年度藤岡市簡易水道事業等特別会計予算	可 決(多 数)
第 57 号	平成 18 年度藤岡市三波川財産区特別会計予算	可 決(多 数)
第 58 号	平成 18 年度藤岡市水道事業会計予算	可 決(多 数)
第 59 号	平成 18 年度藤岡市国民健康保険鬼石病院事業会計予算	可 決(多 数)
議員提出議案		
第 1 号	高金利引き下げに関する意見書の提出について	可 決(多 数)
請 願		
第 1 号	全額国庫負担の「最低保障年金制度」創設を政府に求める請願	不採 択(少 数)
第 2 号	高金利引き下げに関する請願	採 択(多 数)
第 3 号	藤岡市議会議事録、予算及び決算特別委員会会議録、予算書、及び決算書を、市立図書館並びに市民相談室に閲覧のため展示を求める請願	採 択(全 員)

市議会を傍聴しよう

議会は3・6・9・12月の定例会と随時の臨時会が開かれます。

傍聴希望者は、本会議の当日に、市役所2階議会事務局前の傍聴人受付へ来て下さい。住所・氏名を傍聴人受付簿に記入し、番号札を持って入場します。

問い合わせは市議会事務局
(☎②1211内線2361)へ



委員	副委員	委員
湯井	吉田	達哉
串田	湯井	廣志
山田	湯井	廣志
阿野	湯井	廣志
佐藤	湯井	廣志
茂木	湯井	廣志
冬木	湯井	廣志
坂本	湯井	廣志
清水	湯井	廣志
保三	湯井	廣志
忠一	湯井	廣志
幸俊	湯井	廣志

春風が若葉に薫る季節となりました。平成18年3月の定例会は、合併後初めての定例会であり、新生藤岡市の基本となる平成18年度一般会計予算をはじめ各議案の審議を行いました。

一般質問では11名の議員から、防災対策、行政改革、国民健康保険、介護保険、合併特例債等、市民生活に直結する問題について活発に質疑応答が行われました。

「議会だより」も第34号となり、市民の皆様には議会活動がより一層ご理解をいただけるよう、わかりやすく読みやすい「議会だより」にしていきたいと思っております。今後とも、よろしくお願いたします。

編集後記